

自然博物館  
ニュース

# A·MUSEUM

vol.12



ア・ミュージアム

ミュージアムパーク

茨城県自然博物館



## ヒヌマイトンボ

茨城を代表する昆虫を一つ選ぶとなるととても難しいことです。珍しい昆虫がいいのか、それともよく見られる昆虫がいいのか、人によって考え方いろいろあるからです。今回は、茨城に関係する名前がついていること、生育している環境に特徴があること、そして最近何かと話題になっていることからヒヌマイトンボを紹介しましょう。

ヒヌマイトンボは、トンボ目イトトンボ科の一種で日本固有種です。1971年、東茨城郡涸沼で発見された日本で唯一の半汽水性（塩分を含んだ水に住む）のトンボです。ヨシのしげみの中に生息しますが、河川改修などにより生息地が奪われ、すでに絶滅している産地もあります。和名のヒヌマは涸沼、学名には発見者の一人である水戸市在住の昆虫研究家 廣瀬誠氏にちなんでhiroseiの文字が刻まれています。利根川の河口にも生息地が確認され、生息地の確保と橋の建設の間で揺れています。環境庁レッドデータブック絶滅危惧種。茨城町指定天然記念物。

(資料課：久松)

上：ヒヌマイトンボのオス、下：ヒヌマイトンボのメス  
写真協力：茨城町教育委員会

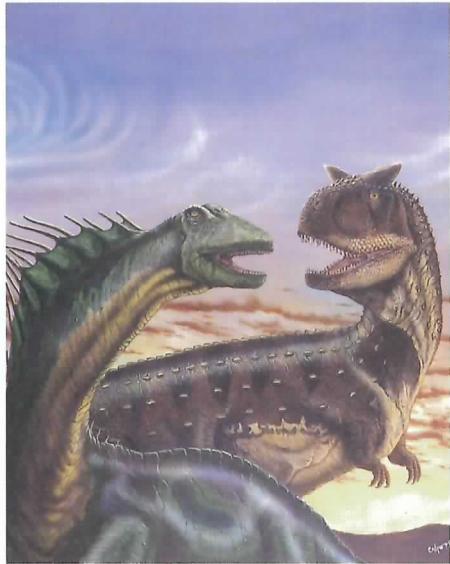
第10回企画展

アマルガサウルスの棘突起はなぜ長い

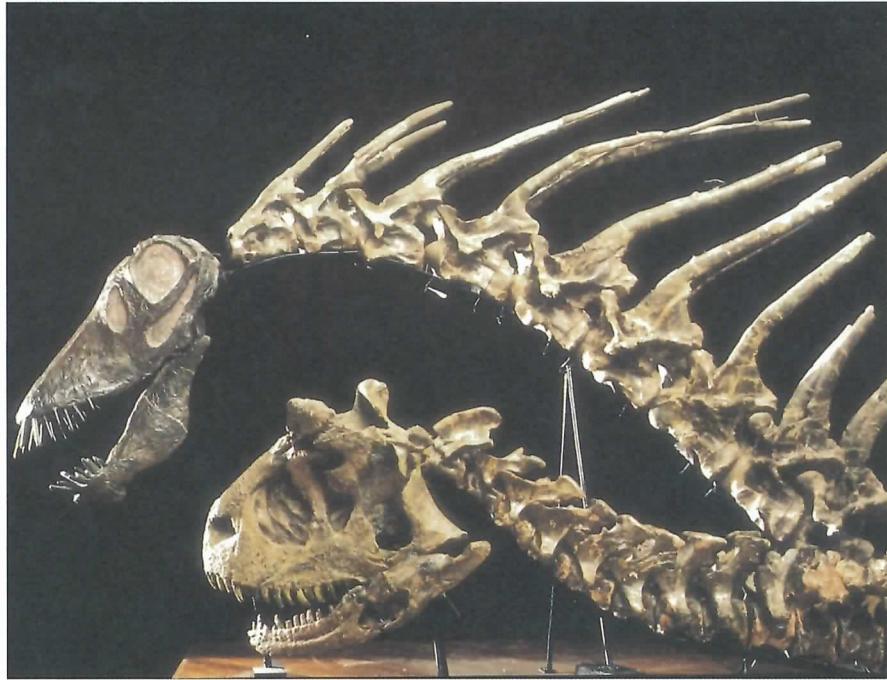
—アルゼンチンの恐竜と自然—

Argentina : The Last Dinosaur Paradise and  
the Present Majestic Nature

1997年7月5日(土)～  
9月15日(月)



生態復元図（左：アマルガサウルス、右：カルノタウルス）



上：アマルガサウルス、下：カルノタウルス

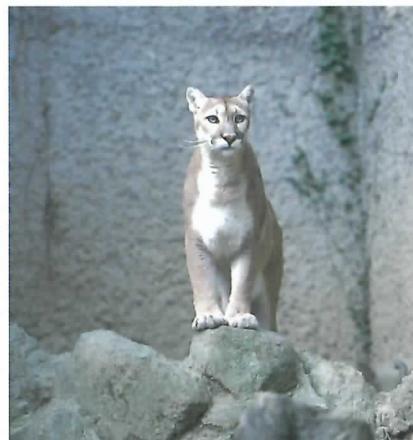
南アメリカーアルゼンチンは、近年、恐竜の起源とされる最古の恐竜や、体長15m以上ともいわれる世界最大の肉食恐竜—ギガノトサウルスが発見されるなど、生物進化のさまざまな情報を発信しています。アルゼンチンでは、1982年の最初の発見から現在までに主に5人の研究者によって恐竜の研究が進められ、現在までにさまざまな恐竜化石が発見されています。

今回の企画展では、アルゼンチン国立自然科学博物館の協力により、国外で初めて特集して展示される恐竜類や特異な哺乳類が注目されます。とくに、背骨の上に長い棘（とげ）状の突起（とっさき）をもった恐竜“アマルガサウルス”，頭骨

に角をもった肉食恐竜“カルノタウルス”などの恐竜類や、19世紀前半にダーウィンがアルゼンチンを調査したときに発見された、たくさんの哺乳類化石があります。哺乳類化石の中では、南アメリカで進化し、発展した巨大アルマジロ、オオナマケモノ、トクソドンの化石があり、陸上の脊椎生物でその進化をみることができます。

また、現在のアルゼンチンに生息する貧歯類とよばれる哺乳類のオオアリクイやアルマジロなどの不思議な生物を紹介します。

これら南アメリカに生き、絶滅した動物や、現在生息する動物類を通じて、今の地球をふりかえり、その未来について考えるものです。



ピューマ（©東京動物園協会）



ムツオビアルマジロ  
(©東京動物園協会)



スケリドテリウム

記念講演会

「アルゼンチンの自然と博物館」

講師：

アルゼンチン国立自然科学博物館長  
ウォルフガング・ウォルクハイマー博士

日時：平成9年8月17日（日）

午後2時から

場所：博物館 3階映像ホール

●開館時間 9時30分～17時

（入館は16時30分まで）

●休館日 毎週月曜日

ただし、月曜日が祝日の場合は、翌火曜日が休館となります。

●入館料 小・中学生 140円(70円)

高校・大学生 430円(290円)

一般 710円(570円)

※（ ）内は20名様以上の団体料金

※この料金には、常設展・野外施設入場料が含まれています。

## 研究ノート●筑波山及び周辺の自然（1）

関東平野の一角にそびえ立っている筑波山の姿は、茨城県を代表する風景の一つとなっています(第1図)。これは、筑波山を構成している岩石が周りの堆積岩と異質な花崗岩類やハンレイ岩類であり、浸食に強い部分が残ったためです。

一方で筑波山は古来より“神域”として的一面もあり、本格的な地質学的・岩石学的研究の実施が難しく、近年まで筑波山塊の形成は謎に包まれていました。しかし、最近になって、岩石の放射年代の測定や霞ヶ浦用水筑波トンネルの掘削工事などが実施され、筑波山塊の形成の全容が明らかになりました。

自然博物館においても、第一次総合調査研究の結果、筑波山周辺の基礎的データが蓄積されています。そこで今回は、これまで分かっている、筑波山形成の経緯を振り返ってみましょう。

### ●岩体の境界部を調べる

筑波山～笠間にかけて分布している花崗岩類はどこでも一様な岩石というわけではありません。岩石を構成している鉱物種と比率・粒度や岩石の面構造の有無などを露頭や顕微鏡観察(第2図)で調べることによって、筑波山塊は3岩体(筑波花崗岩・加波山花崗岩・稻田花崗岩)に大分され、さらに10数の小岩体に分類されています。これらの岩体が、堆積岩類や別岩体に接しているところでは、先に形成された岩石(固体)に後からマグマ(液体)が入り込んできた様子がさまざまなかたちで観察されます(第3図)。

ところで、筑波山の基部は花崗岩になりますが、山頂部は黒っぽいハンレイ岩類で構成されています。この境界があると思われる筑波山中腹は上部から落下してきた岩碎物に覆われているため、花崗岩体・ハンレイ岩体の新旧は議論的でした。しかし、1981年～1990年にかけて、筑波山の真下に霞ヶ浦用水筑波第2トンネルが掘削されたところ、花崗岩に取り込まれたハンレイ岩ゼノリス(捕獲岩)の露頭や接触変成作用を受けたハンレイ岩類、マグマから分離した熱水から生成した鉱物群などが現れ、新旧問題の決定的な証拠となりました。

### ●岩石ができる年代を調べる

最近、火成岩石中に含まれている鉱物の詳細な分析によって、岩石の形成年代(マグマの固結した年代)の測定が多数実施されています。このようなデータの

蓄積によって、岩石の観察によってこれまで組み上げられてきた花崗岩・ハンレイ岩類の新旧や、複数の花崗岩体における新旧などの筑波山の形成モデルが裏付けられるとともに、接していない岩体の新旧も明らかになりました(第4図)。

### ●筑波山の形成

これまで分かっている筑波山のおおよその形成過程は次のようになります。

- ①1～2億年前頃、海底で砂や泥が堆積した。
- ②約7,500万年前、堆積岩中にマグマが貫入し、ハンレイ岩体を形成した。
- ③約6,300万年～5,800万年前にかけて、間欠的に珪酸塩分に富むマグマが貫入した。
- ④約1,700万年前にマグマが貫入して、安山岩脈が形成された。その後、隆起に伴って風化・浸食を受け、硬い部分が突出し、筑波山塊を形成した。

### ●筑波山を調べる

筑波山塊を作ったマグマはどのようにしてできたのでしょうか。花崗岩類は筑波山だけでなく、日本各地に分布しています。現在、筑波花崗岩の全て、あるいは一部が領家帯の花崗岩に、その他の花崗岩が山陽・苗木帯の花崗岩に対比されています。これから筑波山の形成を考えいくときには、日本列島全体の歴史をとらえていかなければなりません。

(資料課：小池)



第1図 南東方向から見た筑波山塊



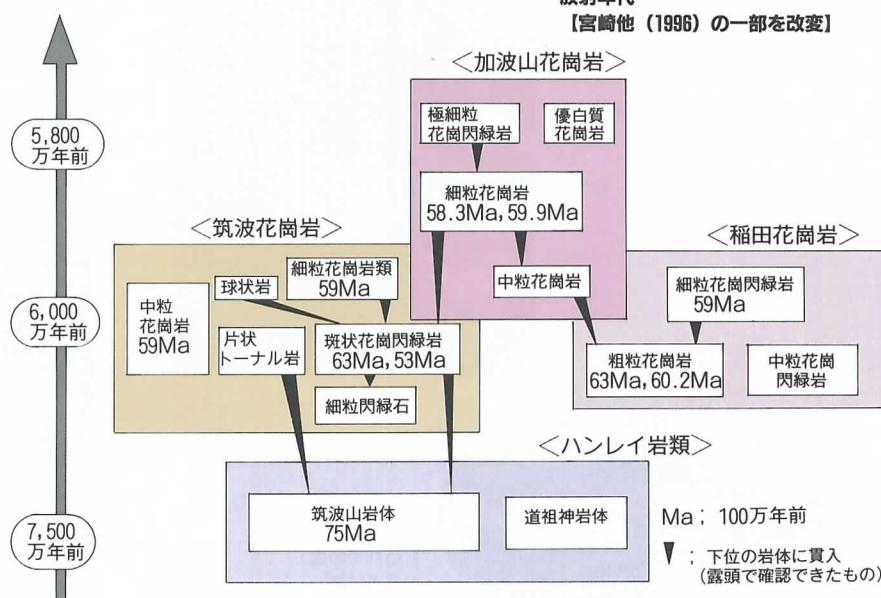
第2図 稲田花崗岩の顕微鏡写真



第3図 花崗岩中に取り込まれた捕獲岩(ゼノリス)

第4図 筑波山周辺の深成岩類の貫入関係及び放射年代

【宮崎他 (1996) の一部を改変】



## 野外紹介◎ネイチャートレイル「鳥と虫の観察コース」

当館の野外には、全長約1.3kmのネイチャートレイル「鳥と虫の観察コース」があります。コース沿いに見られる雑木林・草原・池などの様々な環境にあわせて、そこにすむ鳥や虫などの動物を紹介する「自然観察ノート」、観察のしかたを示した「自然観察メモ」、質問形式の「動物クイズ」などの解説板が設置されています。

このコースは、本館展示で学習したことをいかして、動物たちが生きている姿を自然の中で直接観察し、そのかわいらしい姿や

不思議な生活の様子を感じ取ってもらおうと設けました。

しかし、大きな悩みがあります。動物ですから、必ずしも観察できるとは限らないことです。そこで、博物館では、観察対象となる動物が生活しやすい環境を作るよう工夫し、できるだけたくさんの人たちに会ってもらえるようにしています。

季節によって動物たちの姿や生活の様子も大きく変化しますので、何回となく足を運んで様々な動物たちと会ってください。

(教育課：栗栖)

### 自然観察ノート 動物

(野外の様々な動物を紹介する解説板)

- A. 蒲生沼の鳥
- B. 林の鳥
- C. 水辺や草原の鳥
- D. 林や草原の小動物
- E. 水辺の小動物
- F. 草地の昆虫
- G. 林の昆虫
- H. 水辺の昆虫
- I. 淡水の魚



### 自然観察ノート 植物

(野外の様々な植物を紹介する解説板)

- 1. 照葉樹の極相林
- 2. 針葉樹の極相林
- 3. 照葉樹のコーナー
- 4. 針葉樹のコーナー
- 5. 日本の木と外国の木
- 6. 平地の闊葉樹林
- 7. 夏緑樹の極相林
- 8. 山地・亜高山の闊葉樹林
- 9. 高山付近の植物
- 10. 濡地や水生の植物

**ネイチャートレイルコース**

- 草と木の観察コース
- 鳥と虫の観察コース
- 石と岩の観察コース
- 自然発見器コース
- 水のコース



自然観察ノート「蒲生沼の鳥」　蒲生沼から野鳥を観察。



自然観察メモ「土の中の小さな生き物」

この森にすむ虫を本館展示室において、100倍で展示していることを紹介。

### トピックス1

#### —クイズに挑戦！—

「この中にえんとつのような巣を作るのは？」

竹筒の中にドロバチの仲間が巣を作ります。7～9月にはせわしく出入りする姿が必ず見られます。これも生活場所を作り出し虫を集めの工夫の一つです。オリエンテーリング気分で楽しめると学校団体にも好評です。



ドロバチの巣になる竹筒



### トピックス2

#### —ホタルの流れ—

ホタルの住める環境づくりは、博物館ボランティアの方々の協力を得て実施しました。現在、エサになるカワニナなどの巻き貝も定着し、幼虫も育っています。



カワニナ：ホタルの幼虫のエサになる。

## 歳時記●真夏の夜のおくりもの—ペルセウス座流星群

今春、ヘル・ボップ彗星が地球に大接近しました。夕方の西空に、長い尾を引いて流れる美しい彗星をご覧になったこと思います。

彗星には、一度しか姿を見せないものと、ヘル・ボップ彗星やハレー彗星のように周期的に太陽に近づくものの2種類があります。実はこれらの周期彗星のなかには、私たちに、毎年いつも決まった日に、決まった空の方向からすてきなショーをプレゼントしてくれるものがあるのです。

彗星は、直径1mmほどの小さなちりをまき散らしながら、太陽の周りをぐるっとまわりますが、中には地球の軌道と交差した軌道を持つものもあります。もちろん地球や太陽、木星にぶつかった彗星も例があり、6500万年前の恐竜絶滅は、彗星の衝突が原因と考える研究者も数多くいます。

彗星がまき散らしたちは、その交差点に地球がくると、地球の引力によって地球に落ちてきます。地上80キロメートルほどの高さで、大気との摩擦により高

温状態となって、とても明るく発光します。これが流星群です。

特に出現数が多いのは、1月3日頃のリュウ座流星群・8月12日頃のペルセウス座流星群・12月14日頃のふたご座流星群などです。いずれも各星座の方向から放射状に、最大時で1時間に50個ほど出現します。特にペルセウス座流星群は真夏の夜明け間近、地上に自分の影ができるほど明るい流星をたくさん見せてくれます。気候的にも観測しやすいので、

当日はぜひ夜空を見上げてください。彗星本体が地球に近づいたときは、1分間に1000個ほどの流星が現れる流星雨が見られることもあります。今年の11月17日には、以前ものすごい流星雨（しし座流星群）を見てくれたテンペル・タットル彗星が33年ぶりに地球に近づきます。もしかしたら、もしかするかもしません。てるてる坊主をたくさんつくって、朝までがんばってみましょう。

(資料課：高橋)



昇る天の川とペルセウス座流星群  
—平成6年8月12日、大子町にて—  
撮影：鈴木正人氏

## 収蔵品紹介●植物さく葉標本（鈴木昌友コレクション）

博物館が評価される基準の一つとして、有名なコレクションをどれだけ持っているかが対象となります。オークションで高額で買い取ることは別として、研究者が自身が標本を寄贈する場合は、自分が生涯をかけて研究してきた大切な標本を託するのに値する博物館であると認め、寄贈すると考えられるからです。一般的にそれぞれの博物館では、このようにして集まったコレクションを大切に保管し、各種の研究や企画展等に活用しています。

今回紹介する鈴木昌友コレクションは、1940年代から現在に至るまで全国各地から採集された貴重なさく葉標本（いわゆる押し葉標本で、研究の基礎となるもの）で、その数は20,000点以上にのぼります。これらの中には、現在は絶滅してしまった植物（ムジナモ等）や大変貴重になってしまったといわれる植物（デンジソウやフジバカラマ等）、県内では見られなくなってしまった植物（コアツモリソウやアツモリソウ等）、先生の研究論文の証拠標

本など多くの大切な標本が入っています。現在、職員が毎日少しづつ鈴木昌友コレクションの登録を進めているところです。数が数だけに登録が終了し、コレクション一覧ができるまでに何年かかるか心配しています。

このコレクションが完全にコンピュータ登録されると、植物ごとの分布や年代ごとの変化を検索することができ、自然環境の変化を知るうえでも大変貴重なデータとなります。

(教育課：中山)

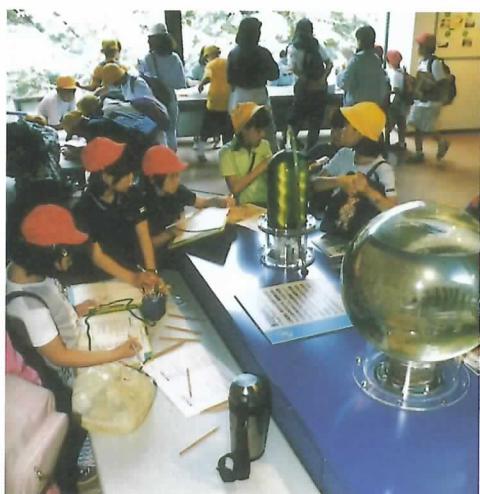


寄贈された、さく葉標本



感謝状贈呈式  
左：齋藤佳郎教育委員会教育長  
右：鈴木昌友氏（前茨城大学教授）

## レポート◎サイエンスデー



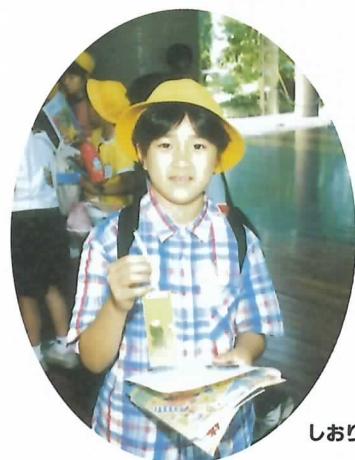
環境クイズに挑戦中

自然博物館には、一年に4回の無料入館日があります。博物館ではこの無料入館日を、身近な自然に親しみながら、生物や環境・宇宙などについて考える日「サイエンスデー」としています。

「サイエンスデー=科学の日」は、「科学」という言葉から、何となく近寄りが



ドキドキする採点、何問正解したかな?



しおり完成!



お気に入りの押し花は見つかったかな?

たいイメージを持たれるかもしれません。実はイベントが盛りだくさんの楽しい一日です。生き物や環境に関するクイズ、学芸系職員による展示解説などをとおして、遊びながら改めて自然を見直す絶好の機会です。

最新のサイエンスデーの状況をお知らせします。6月5日環境の日は、第5展示室「人間と環境」で、学芸系職員が自然環境保全の大切さについて解説を行いました。また同じ展示室内で環境クイズを実施、769名の参加がありました。このクイズに挑戦した人には、博物館オリジナル押し花のしおりづくりへの参加券が手渡され、個性豊かな押し花しおりが次々に完成しました。

楽しく自然に接するサイエンスデー、ぜひ、一度参加してみませんか。

(企画課:大森)

4月29日:みどりの日 (生物・科学の日)

6月5日:環境の日 (地球・科学の日)

11月13日:県民の日 (茨城・科学の日)

3月21日:春分の日 (宇宙・科学の日)

## スポット◎茨城県立さしま少年自然の家



### コラム by director NAKAGAWA ◎虫おくり

最近、ある新聞を読んでいたら「果樹にロック音楽一害虫防止に効果」という記事が出ていました(ソウル=AFP通信)。

記事によりますと、韓国の昆虫学者が、桃の木にアブラムシ科の害虫を試験的に寄生させ、これにロック音楽を大音量でかけたところ、その増殖が通常の四分の一におさえられたということです。その原因については、音楽によって樹木のある色素が増え、これが効果があったと報告しています。

日本では昔から「虫おくり」の行事があり、作物などにつく害虫を除くため太鼓や鐘をたたいて村はずれまで行進するというのがありますが、これも単なる行事ではなく、ロックと同じような効果があったのかもしれません。

考えてみると、害虫といえばすぐに殺虫剤を用いている現代の風潮が種々の問題を起こしている今、古代の考えに学ぶ新たな虫との共生を考える必要があるかもしれません。



さしま少年自然の家は、松・杉をはじめ、ナラ・クヌギなどの雑木林で覆われた約13haもの広い敷地を誇り、85種の野鳥のささやきがあふれた自然環境の中にあります。

小中高生の共同生活学習及び子供会活動、スポーツ少年団、社会教育団体等のいろいろな方に利用されています。キャンプファイヤー、野外炊飯、プラネタリウム、魚つり等利用団体の自由な活動計画のもとに、バリエーション豊かな楽しさあふれる活動を行うことができます。

また、出会いとふれあいを大切にした行事としては、一般に開放した「子どもまつり」、親子のふれあいを中心とした「うどんやそば打ち」「親子キャンプ」等があり、多くの方が参加しています。

これから計画されている楽しい行事に参加してみませんか。

問い合わせ 猿島郡境町伏木2095-3 0280-86-6311

## トピックス●(3月~5月)

入館者150万人達成 4月29日(火)

平成8年4月27日に100万人目の入館者を迎えてから約1年後の4月29日、入館者が150万人を突破しました。開館（平成6年11月13日）から数えると、2年5ヶ月と16日目です。

記念の入館者となったのは、岩井市在住の岡田安代さん（岩井市立中川小学校3年生）です。岡田さんは、「何回も博物館には来ているけれど、こんな経験は初めて。」と、大変驚いていました。岡田さんには、中川館長からの感謝状をはじめとして、化石発掘キットや双眼鏡などの記念品が贈られました。

また入館者150万人にちなんで、年齢の合計が150歳程度の3組の方々にご協力いただき、太陽の広場で記念植樹を行いました。芝生広場では、岩井市立岩井中学校吹奏楽部による記念コンサートも行われました。



由三館長と岡田さんご家族



熱演！岩井中学校吹奏楽部

## 参加者2000人達成!! 化石のクリーニング

5月8日(木)

化石のクリーニングとは、化石を覆っている岩石や土などをきれいに取り除く作業のことと、毎週木曜日と第4土曜日に自然発見工房で行われています。ボランティアが中心となって、平成8年3月にはじまりました。

第1回目、参加者4名で始まった化石のクリーニングも、5月8日に2000人目の参加者を迎えることができました。記念の参加者となったのは、坂入正治くん(つくば市立北条小学校4年生)です。坂入くんには、中川館長から2000人達成記念表彰状や木の葉の化石、ミュージアムグッズが贈られました。



おめでとう！坂入君  
中川館長、ボランティア講師の尾上亨さんと記念撮影

うれしい手紙が  
届きました！

普段の業務として館職員がとった行動に対し、このような手紙をいただきました。当館を利用される方へのサービスの大切さを改めて知る機会となりました。駒込学園 渕上先生、ありがとうございました。

先日は本校より中學一年生が、理科の校外學習など、  
先生によつて御説教をされて頂き、有難い義理で一日を過ぎ  
させて頂きました。また、  
一所懇親会にて先生近海に橋上へ下りさせられて、  
不丁寧から現金を貰ひ期頃人や車も混んでしまって、船酈  
に迷いましたが、見つかり難い集合時間となってしまったので、  
親身になつて、持てて下さった方へ、本校へお詫び申し上げます。  
到着して間もなく見つかりました。と、連絡を頂く  
ところ思ひ、本当に頭に頭に下さった事です。  
帰る時間、前に「各自の名刺を渡さないで」と  
相手の方よりお前も自分の禮金にして不留れな  
落着してしまった所で、改めて白金の禮金にして不留れな  
所になりました。どうかお詫び申し上げて下さったのに、本当に驚いており  
心より感謝しております。  
又半年が新規一年生で、うろぼらがおらず、それで  
頂くと思つた所で、この時はどううもろと、お顔へ放つて  
貴様のことをよくお察しとお祈り申上げます。  
又その男性の方もしかり、さうして、くれぐれもよく  
お伝え頂かないと、思つて、ベニスで貰つた  
私文、お筆にて、お手に付けて

## 観察の記録

菅生沼で絶滅危惧種「オオアブノメ」の生育を確認!!

## 資料課 小幡 和男

先日（6月8日）菅生沼に出かけたところ、絶滅危惧種（絶滅の危機に瀕している種）オオアブノメを発見しました。この植物はゴマノハグサ科の一年草で、かつては水田の雑草としてふつうに見られたものです。

現在、この植物をはじめ水田や湿地に見られた植物は農薬の影響により衰退し、湖沼や河川敷の湿地も埋め立てや護岸工事のために急速に失われつつあります。

このような状況の中で、菅生沼の湿地にはタチスミレやチョウジソウなどの危急種（絶滅の危険が増大している種）が9種生育し、貴重な自然が残されています。しかし、沼の湿地はほとんどがヨシ原で占められ、湿地の植物群落の多様性は貧しいものとなっています。

かつて沼では貴重な資源を得るために、ヨシ刈りなどが行われていました。植物研究室ではこのような人為的なかく乱が植物群落の多様性を保っていたのではないかと考え、ヨシ原の刈り取りや掘り起こし実験を行っています。結果は予想通り出現種の増加が認められ、特に掘り起こしたところに、危急種ミズアオイと今回発見したオオアブノメの生育が確認されました。これらの種の発生は、かく乱により長い間土の中で眠っていた種子が目を覚ましたと考えられます。オオアブノメは県内では最近は確認されておらず、たしかに貴重なデータを得ることができました。



## インフォメーション(7~9月の行事)

### 自然観察会

- 7月13日(日)10:00~  
『海辺の植物を観察しよう』
  - 8月24日(日)10:00~  
『河原の岩石を調べよう』
  - 9月28日(日)10:00~  
『川にすむ虫を観察してみよう』  
[小学生以上が対象です]
- \*集合場所・定員は観察会ごとにかわります。

### 自然講座(定員40名)

- 7月6日(日)13:00~  
『毒をもつ動物たち』
- 9月7・14日(日)13:00~(2週連続)  
『押し花による絵画制作』  
[中学生以上が対象です]

### えいが会(定員約300名)[講堂・映像ホール]

- 7月20日(日)『アンパンマン』
  - 8月3日(日)『レックス』
  - 9月21日(日)『河童』
- 上映時間 14:00~ 入場無料

### 自然教室(定員40名)

- 7月12日(土)10:00~  
『菅生沼の昆虫』
- 8月9日(土)10:00~  
『水草を調べよう』
- 9月13日(土)10:00~  
『雲のいろいろ』  
[小中学生が対象です]

### [各講座等への申込方法]

2週間前までに電話で申し込んで下さい。なお、希望者多数の場合は、抽選を行います(講座は先着順)。

ミュージアムパーク 茨城県自然博物館  
TEL 0297-38-2000

### サンデー・サイエンス【楽しい体験教室】

月ごとにいろいろなテーマで、毎週日曜日にディスカバリー・プレイス内のスタジルームで実施しています。

観察や実験、工作などの体験をとおして、楽しみながら自然への関心を深める機会です。

### テーマ

7月『葉脈標本のしおりづくり』

8月『赤土の中の宝物』

9月『カニの体を調べてみよう』

時間 午前の部 10:30~12:00

午後の部 14:00~15:30

受付 開始時間の20分前までに、スタジルーム前で受付をしてください。希望者多数の場合は抽選を行います。

### 夏休み自然なんでも相談(7・8月), 自然なんでも相談(9月)

相談日 7月26日(土)27日(日)

8月23日(土)24日(日)

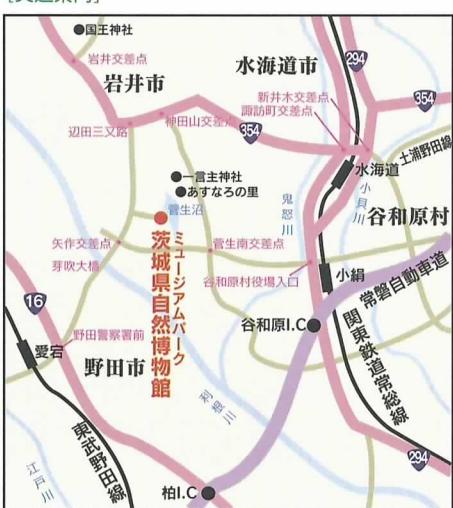
9月14日(日)

場所 ディスカバリー・プレイス観察カウンター  
時間 14:00~16:00

### 夏休み特別イベント

- 7月20日(日) 海藻押し葉つくり  
海の日スペシャルクイズ大会
- 7月21日(日) 理科自由研究のヒントを見つけよう!  
事前に申し込みをして下さい。
- 8月14日(日) 特別えいが会  
『平成たぬき合戦ポンポコ』

### [交通案内]



7月						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

8月						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2			
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

9月						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

## ご利用案内

### [入館料]

区分	本館・野外施設	野外施設のみ
小・中学生	100円 (50円)	50円 (30円)
高校・大学生	310円 (200円)	100円 (50円)
大人	510円 (410円)	200円 (100円)

(注) ( ) 内は団体料金(20人以上)

企画展開催期間中については別料金となります。  
つぎの日の入館料は無料です。

● 3月21日(春分の日) ● 4月29日(みどりの日)

● 6月5日(環境の日) ● 11月13日(茨城県民の日)

午前9時30分から午後5時まで

(入館は午後4時30分まで)

● 毎週月曜日(祝日の場合はその翌日)

● 平成9年12月8日(月)から12月17日(火)までの10日間は、  
くん蒸期間のため、臨時休館となります。

### [編集後記]

今年の夏は、エルニーニョ現象により冷夏になるのでは、と予想されています。博物館も、館内(冷房完備!)はもちろ

ん、野外も涼しい“夏”になるかもしれません。

でも、ご安心ください。夏の博物館は、気持ちがあつくするイベントが満載です。

あづくなれば夏ではない!という人は、ぜひ、自然博物館の夏のイベントに参加しましょう。(S・O)

